

学校コード

注3

設置年度 令和 5年度

計画の区分： 研究科の設置

注1

**認可**

注2

富山県立大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (必要がある場合) ○○専攻

## 【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

公立大学法人富山県立大学  
令和5年5月1日現在

作成担当者	
担当部局(課)名	富山キャンパス事務部 管理課
職名・氏名	テラオカ ノブロウ 寺岡 伸郎
電話番号	076-464-5410 (内121)
(夜間)	076-464-5410 (内121)
e-mail	kanri-toyama@pu-toyama.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「○○大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に  
( )書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) ○○大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「○○大学」
- 学部の設置の場合：「○○大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「○○大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「○○短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「○○大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「○○大学大学院 ○○研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「○○大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/mext\\_01087.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html)

# 目次

## 看護学研究科

＜看護学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. その他全般的事項	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	15
6. 附帯事項等に対する履行状況等	25
7. その他全般的事項	27

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

公立大学法人富山県立大学

## (2) 大学名

富山県立大学大学院

## (3) 調査対象大学等の位置

〒930-0975 (939-0398)

富山県富山市西長江2丁目2番78号 (富山県射水市黒河5180番地)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を ( ) 書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	( ヤマモト オサム ) 山本 修 (令和5年4月)		
学長	( シモヤマ イサオ ) 下山 勲 (平成31年4月)		
研究科長	( サエキ カズコ ) 佐伯 和子 (令和5年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を ( ) 書きで記入してください。  
(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)  
令和5年度に報告する内容 → (5)  
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載 (昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正) するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。  
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和5年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
看護学研究科 看護学専攻 修士（看護学）	保健衛生学関係 （看護学関係）	2 年	10 人	2年次 0 人 3年次 人 4年次 人	20 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。）

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率（控除後）	収容定員充足率	収容定員充足率（控除後）	備考	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期						
A 入学定員	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	1.30倍	-	1.30倍	-		
志願者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]						
受験者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]						
合格者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]						
B 入学者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]						
入学定員超過率 B/A																		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ ( ) 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、( ( ) )書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「平均入学定員超過率（控除後）」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和6年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	13 [ 0 ] ( )	
2年次	/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次			/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )
4年次	/				/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )
計			[ ] ( )	[ ] ( )			[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	13 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
  - ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
  - ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
  - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{13} = \boxed{0} \%$$

- (注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学研究科 看護学専攻

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
共通科目	看護学研究特論	1前	2			2	1				
	看護倫理特論	1前	2			1					1
	看護教育特論	1後		2		2					1
	看護管理特論	1後		2		2					2
	コンサルテーション論	1後		2		1					4
	看護統計特論	1前		2		1	1	1			
	看護ケア科学特論	1前		2				2			2
	国際看護特論	1後		2		1	1				2
	ケアコミュニケーション特論	1前		2		1	1	1			2
	富山県の医療保健福祉特論	1前		2		1		2			2
	臨床薬理学特論	1後		2			1				1
	フィジカルアセスメント特論	1後		2		1	1	1			1
	病態生理学特論	1前		2		1					13
小計(13科目)		—	6	20	0	14	8	5	0	0	31
看護専門科目	基礎看護学特論	1前		2		1	2				
	基礎看護学特論演習Ⅰ	1後		2		1	3				
	基礎看護学特論演習Ⅱ	2前		2		1	1	2			
	成人看護学特論	1前		2		4	1				
	成人看護学特論演習Ⅰ	1後		2		4	1				
	成人看護学特論演習Ⅱ	2前		2		2	1	2			
	老年精神看護学特論	1前		2		3					
	老年精神看護学特論演習Ⅰ	1後		2		3	2				
	老年精神看護学特論演習Ⅱ	2前		2		1		2			
	母子看護学特論	1前		2		1	2				
	母子看護学特論演習Ⅰ	1後		2		1	3				
	母子看護学特論演習Ⅱ	2前		2		1	1	3			
地域在宅看護学特論	1前		2		2	1					
地域在宅看護学特論演習Ⅰ	1後		2		2	2					
地域在宅看護学特論演習Ⅱ	2前		2		1	3	1				
小計(15科目)		—	0	30	0	27	21	12	1	0	
高度実践看護科目(老年看護)	老年看護学原論	1前		2		2	2				
	高齢者アセスメント論	1前		2		1	1	1			6
	老年医学特論	1前		2		1		1			
	高齢者高度看護実践論	1前		2		2	2	1			3
	高齢者ケアシステム論	1前		2		1	2				3
	高度実践老年看護学演習Ⅰ(慢性期における老年看護)	1後		2		1	1	2			3
	高度実践老年看護学演習Ⅱ(認知症老年看護)	1後		2		2	1				1
	高度実践老年看護学実習Ⅰ(専門看護師の役割実践)	1後		1		2	2	1			
	高度実践老年看護学実習Ⅱ(認知症高齢者への看護実践)	2前		6		2	2	1			
	高度実践老年看護学実習Ⅲ(慢性期における老年看護実践)	2前		3		2	2	1			
小計(10科目)		—	0	24	0	16	15	8	0	0	16
研究科目	看護学特別研究(研究コース)	2通	10			11	11				
	特定課題研究(専門看護師コース)	2通	6			2	2	1			
小計(2科目)		—	16	0	0	13	13	1	0	0	0
合計(40科目)		—	22	74	0	70	57	26	1	0	47

卒業要件及び履修方法

【研究コース】  
本研究科に2年以上在籍し、  
①共通科目から8単位(必修8単位)以上、  
②看護専門科目から1分野を選択し、特論2単位及び演習4単位、  
③共通科目及び選択しなかった看護専門科目の特論から6単位以上、  
④看護学特別研究10単位  
の合計30単位以上を修得し、修士論文の提出及び論文審査に合格すること。  
【専門看護師コース】  
本研究科に2年以上在籍し、  
①共通科目から16単位(必修6単位、専門看護師コース必修10単位)以上、  
②高度実践看護科目(老年看護)10科目24単位、  
③特定課題研究6単位、  
合計46単位以上を修得し、特定課題研究論文の審査に合格すること。

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
共通科目	看護学研究特論	1前	2			2	1				
	看護倫理特論	1前	2			1					1
	看護教育特論	1後		2		2					1
	看護管理特論	1後		2		2					2
	コンサルテーション論	1後		2		1					4
	看護統計特論	1前		2		1	1	1			
	看護ケア科学特論	1前		2				2			2
	国際看護特論	1後		2		1	1				2
	ケアコミュニケーション特論	1前		2		1	1	1			2
	富山県の医療保健福祉特論	1前		2		1		2			2
	臨床薬理学特論	1後		2			1				1
	フィジカルアセスメント特論	1後		2		1	1	1			1
	病態生理学特論	1前		2		1					13
小計(13科目)		—	6	20	0	14	8	5	0	0	31
看護専門科目	基礎看護学特論	1前		2		1	2				
	基礎看護学特論演習Ⅰ	1後		2		1	3				
	基礎看護学特論演習Ⅱ	2前		2		1	1	2			
	成人看護学特論	1前		2		4	1				
	成人看護学特論演習Ⅰ	1後		2		4	1				
	成人看護学特論演習Ⅱ	2前		2		2	1	2			
	老年精神看護学特論	1前		2		3					
	老年精神看護学特論演習Ⅰ	1後		2		3	2				
	老年精神看護学特論演習Ⅱ	2前		2		1		2			
	母子看護学特論	1前		2		1	2				
	母子看護学特論演習Ⅰ	1後		2		1	3				
	母子看護学特論演習Ⅱ	2前		2		1	1	3			
地域在宅看護学特論	1前		2		2	1					
地域在宅看護学特論演習Ⅰ	1後		2		2	2					
地域在宅看護学特論演習Ⅱ	2前		2		1	3	1				
小計(15科目)		—	0	30	0	27	21	12	1	0	
高度実践看護科目(老年看護)	老年看護学原論	1前		2		2	2				
	高齢者アセスメント論	1前		2		1	1	1			6
	老年医学特論	1前		2		1		1			
	高齢者高度看護実践論	1前		2		2	2	1			3
	高齢者ケアシステム論	1前		2		1	2				3
	高度実践老年看護学演習Ⅰ(慢性期における老年看護)	1後		2		1	1	2			3
	高度実践老年看護学演習Ⅱ(認知症老年看護)	1後		2		2	1				1
	高度実践老年看護学実習Ⅰ(専門看護師の役割実践)	1後		1		2	2	1			
	高度実践老年看護学実習Ⅱ(認知症高齢者への看護実践)	2前		6		2	2	1			
	高度実践老年看護学実習Ⅲ(慢性期における老年看護実践)	2前		3		2	2	1			
小計(10科目)		—	0	24	0	16	15	8	0	0	16
研究科目	看護学特別研究(研究コース)	2通	10			11	11				
	特定課題研究(専門看護師コース)	2通	6			2	2	1			
小計(2科目)		—	16	0	0	13	13	1	0	0	0
合計(40科目)		—	22	74	0	70	57	26	1	0	47

卒業要件及び履修方法

【研究コース】  
本研究科に2年以上在籍し、  
①共通科目から8単位(必修8単位)以上、  
②看護専門科目から1分野を選択し、特論2単位及び演習4単位、  
③共通科目及び選択しなかった看護専門科目の特論から6単位以上、  
④看護学特別研究10単位  
の合計30単位以上を修得し、修士論文の提出及び論文審査に合格すること。  
【専門看護師コース】  
本研究科に2年以上在籍し、  
①共通科目から16単位(必修6単位、専門看護師コース必修10単位)以上、  
②高度実践看護科目(老年看護)10科目24単位、  
③特定課題研究6単位、  
合計46単位以上を修得し、特定課題研究論文の審査に合格すること。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。
  - ・ (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
  - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「「連携実務実習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) -②授業科目表に関する変更内容

**【令和5年度】**

特になし

- (注) ・ 2(1)-① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
  - ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は適宜削除してください。



(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
5 科目	35 科目	0 科目	40 科目	5 科目 [ 0 ]	35 科目 [ 0 ]	0 科目 [ 0 ]	40 科目 [ 0 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
  - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
  - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし
------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{40} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。  
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	・射水キャンパスの建物(22,912㎡)については、県からの無償貸与(3年毎の自動更新) ・富山キャンパスの土地(11,858㎡)及び建物(14,898㎡)については、県からの無償貸与(3年毎の自動更新)			
	校舎敷地	117,551㎡	— ㎡	— ㎡	117,551㎡				
	運動場用地	44,450㎡	— ㎡	— ㎡	44,450㎡				
	小 計	162,001㎡	— ㎡	— ㎡	162,001㎡				
	そ の 他	47,869㎡	— ㎡	— ㎡	47,869㎡				
	合 計	209,870㎡	— ㎡	— ㎡	209,870㎡				
(2) 校舎	専 用	81,291㎡	— ㎡	— ㎡	81,291㎡				
	( 81,291㎡)	( — ㎡)	( — ㎡)	( 81,291㎡)					
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	53室	85室	171室	4室 (補助職員 — 人)	2室 (補助職員 — 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		看護学部を含む			
	看護学研究科 看護学専攻(修士課程)			64 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	看護学部を含む	
	看護学研究科 看護学専攻	20,809 [ 148 ] (20,322 [110])	175 [ 20 ] (122 [10])	43 [ 20 ] (37 [10])	420 (365)	12,869 (12,677)	52 (52)		
	計	20,809 [ 148 ] (19,309 [108])	175 [ 20 ] (142 [10])	43 [ 20 ] (33 [10])	420 (365)	12,869 (12,677)	52 (52)		
(6) 図書館	面 積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	3,457㎡		427席		18.9万冊				
(7) 体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	㎡								
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	教員1人当たり研究費等、共同研究費等は看護学部、看護学研究科全体
		教員1人当たり研究費等	617千円	617千円	図書購入費	617千円	617千円	614千円	
		共同研究費等	142,331千円	142,331千円	設備購入費	617千円	617千円	614千円	
	学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		県内 724千円 県外 818千円	536千円	—千円	—千円	—千円	—千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		奨励寄付金、受託研究費、電源立地交付金等の外、不足する分については、富山県の運営費交付金を充てる						

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に赤字で記入してください。  
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	富山県立大学										平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	1	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	1	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	1	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	1
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考					
	年	人	年次人	人		倍	倍	倍	倍	年度	年度							
工学部	4	375	-	1,430	-	1.04	-	1.05	-		平成2	富山県射水市黒河5180番地						
機械システム工学科	4	60	-	240	学士(工学)	1.02	-	1.05	-		平成2	同上						
知能ロボット工学科	4	70	-	260	学士(工学)	1.03	-	1.06	-		平成18	同上	令和4年度入学定員増(10人)					
電子・情報工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	-	-	-		平成18	同上	令和2年度入学生より学生募集停止					
電気電子工学科	4	45	-	180	学士(工学)	1.01	-	1	-		令和2	同上						
情報システム工学科	4	70	-	230	学士(工学)	1.05	-	1.04	-		令和2	同上	令和4年度入学定員増(25人)					
環境・社会基盤工学科	4	55	-	220	学士(工学)	1.05	-	1.04	-		平成21							
生物工学科	4	40	-	160	学士(工学)	1.03	-	1.06	-		平成18	-						
医薬品工学科	4	35	-	140	学士(工学)	1.1	-	1.1	-		平成29							
看護学部	4	120	-	480	-	1	-	0.99	-		平成31	富山県富山市西長江2丁目2番78						
看護学科	4	120	-	480	学士(看護学)	1	-	0.99	-		平成31	同上						
大学全体	4	495	-	1910	-	-	-	-	-		-	-						

大学の名称	富山県立大学大学院										平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	1	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	1	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	1	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	2
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考					
工学研究科 博士前期課程	2	108	-	216	-	1.15	-	1.18	-	-	平成6	富山県射水市黒河5179番地						
機械システム工学専攻	2	20	-	40	修士(工学)	1.25	-	1.25	-	-	平成6		令和3年度定員数変更					
知能ロボット工学専攻	2	20	-	40	修士(工学)	1.2	-	1.25	-	-	平成18		令和3年度定員数変更					
電子・情報工学専攻	2	27	-	54	修士(工学)	0.92	-	0.96	-	-	平成18		令和3年度定員数変更					
環境・社会基盤工学専攻	2	15	-	30	修士(工学)	1.03	-	1.1	-	-	平成25		令和3年度定員数変更					
生物・医薬品工学専攻	2	26	-	52	修士(工学)	1.36	-	1.36	-	-	平成8		令和3年度定員数変更					
看護学研究科 修士課程	2	10	-	20	修士(看護学)	1.3	-	1.3	-	-	令和5	富山県富山市西長江2丁目2番78号						
看護学専攻	2	10	-	20	修士(看護学)	1.3	-	1.3	-	-	令和5							
工学研究科 博士後期課程	3	10	-	30	-	0.67	-	0.63	-	-	平成8	富山県射水市黒河5179番地						
総合工学専攻 (機械システム工学、 知能ロボット工学、電子・ 情報工学、環境・社会基盤 工学、生物・医薬品工学)	3	10	-	30	博士(工学)	0.67	-	0.63	-	-	令和3		令和3年度「総合工学専攻」の1専攻5分野に再編し、定員数を変更					
大学院全体	-	128	-	266	-	-	-	-	-	-								

大学の名称											平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数		平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数		収容定員充足率0.7倍以下の学科数		収容定員充足率1.15倍以上の学科数	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考					

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。  
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。  
 (様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。)  
 ・学部等の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず、履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
 ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。  
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。  
 ・「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。  
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。  
 ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。  
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。  
 ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。  
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合は、「-」としてください。  
 ・「平均入学定員超過率(控除後含む)」及び「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。  
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。  
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学研究科 看護学専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授 (研究科長)	佐伯和子 <令和5年4月> 博士(保健学)	専	教授 (研究科長)	佐伯和子 <令和5年4月> 博士(保健学)
		看護管理特論※ コンサルテーション特論※ 地域在宅看護学特論※ 地域在宅看護学特論演習 I 看護学特別研究			看護管理特論※ コンサルテーション特論※ 地域在宅看護学特論※ 地域在宅看護学特論演習 I 看護学特別研究
専	教授	岡本 恵里 <令和5年4月> 博士(教育学)	専	教授	岡本 恵里 <令和5年4月> 博士(教育学)
		看護倫理特論※ 看護教育特論※ ケアコミュニケーション特論※ 基礎看護学特論※ 基礎看護学特論演習 I 基礎看護学特論演習 II 看護学特別研究			看護倫理特論※ 看護教育特論※ ケアコミュニケーション特論※ 基礎看護学特論※ 基礎看護学特論演習 I 基礎看護学特論演習 II 看護学特別研究
専	教授	柴子 嘉美 <令和5年4月> 博士(医学)	専	教授	柴子 嘉美 <令和5年4月> 博士(医学)
		フィジカルアセスメント特論※ 成人看護学特論※ 成人看護学特論演習 I ※ 看護学特別研究			フィジカルアセスメント特論※ 成人看護学特論※ 成人看護学特論演習 I ※ 看護学特別研究
専	教授	片田 裕子 <令和5年4月> 博士(保健学)	専	教授	片田 裕子 <令和5年4月> 博士(保健学)
		成人看護学特論※ 成人看護学特論演習 I ※ 看護学特別研究			成人看護学特論※ 成人看護学特論演習 I ※ 看護学特別研究
専	教授	張 平平 <令和5年4月> 博士(看護学)	専	教授	張 平平 <令和5年4月> 博士(看護学)
		国際看護特論※ 老年精神看護学特論※ 老年精神看護学特論演習 I ※ 老年看護学原論※ 老年医学特論※ 高齢者ケアシステム論※ 高度実践老年看護学実習 I 高度実践老年看護学実習 II 高度実践老年看護学実習 III 看護学特別研究 特定課題研究			国際看護特論※ 老年精神看護学特論※ 老年精神看護学特論演習 I ※ 老年看護学原論※ 老年医学特論※ 高齢者ケアシステム論※ 高度実践老年看護学実習 I 高度実践老年看護学実習 II 高度実践老年看護学実習 III 看護学特別研究 特定課題研究
専	教授	松井 弘美 <令和5年4月> 博士(保健学)	専	教授	松井 弘美 <令和5年4月> 博士(保健学)
		看護学研究特論※ 母子看護学特論※ 母子看護学特論演習 I ※ 母子看護学特論演習 II 看護学特別研究			看護学研究特論※ 母子看護学特論※ 母子看護学特論演習 I ※ 母子看護学特論演習 II 看護学特別研究
専	教授	田中 いずみ <令和5年4月> 修士(看護学)	専	教授	田中 いずみ <令和5年4月> 修士(看護学)
		看護教育特論※ 看護学特別研究			看護教育特論※ 看護学特別研究
専	教授	越田 美穂子 <令和5年4月> 博士(保健学)	専	教授	越田 美穂子 <令和5年4月> 博士(保健学)
		看護統計特論※ 富山県の医療保健福祉特論※ 地域在宅看護学特論※ 地域在宅看護学特論演習 I 看護学特別研究			看護統計特論※ 富山県の医療保健福祉特論※ 地域在宅看護学特論※ 地域在宅看護学特論演習 I 看護学特別研究
専	教授	城戸口 親史 <令和5年4月> 博士(医学)	専	教授	城戸口 親史 <令和5年4月> 博士(医学)
		看護管理特論※ 病態生理学特論※ 成人看護学特論※ 成人看護学特論演習 I ※ 成人看護学特論演習 II 看護学特別研究			看護管理特論※ 病態生理学特論※ 成人看護学特論※ 成人看護学特論演習 I ※ 成人看護学特論演習 II 看護学特別研究

<看護学研究科 看護学専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	比嘉 肖江 <令和5年4月> 博士(人間文化学)	専	教授	比嘉 肖江 <令和5年4月> 博士(人間文化学)
		看護学研究特論※ 成人看護学特論※ 成人看護学特論演習Ⅰ※ 成人看護学特論演習Ⅱ 高齢者高度看護実践論※ 看護学特別研究			看護学研究特論※ 成人看護学特論※ 成人看護学特論演習Ⅰ※ 成人看護学特論演習Ⅱ 高齢者高度看護実践論※ 看護学特別研究
専	教授	木谷 尚美 <令和5年4月> 博士(看護学)	専	教授	木谷 尚美 <令和5年4月> 博士(看護学)
		老年精神看護学特論※ 老年精神看護学特論演習Ⅰ※ 老年精神看護学特論演習Ⅱ 老年看護学原論※ 高齢者アセスメント論※ 高齢者高度看護実践論※ 高度実践老年看護学演習Ⅰ※ 高度実践老年看護学演習Ⅱ※ 高度実践老年看護学実習Ⅰ 高度実践老年看護学実習Ⅱ 高度実践老年看護学実習Ⅲ 看護学特別研究 特定課題研究			老年精神看護学特論※ 老年精神看護学特論演習Ⅰ※ 老年精神看護学特論演習Ⅱ 老年看護学原論※ 高齢者アセスメント論※ 高齢者高度看護実践論※ 高度実践老年看護学演習Ⅰ※ 高度実践老年看護学演習Ⅱ※ 高度実践老年看護学実習Ⅰ 高度実践老年看護学実習Ⅱ 高度実践老年看護学実習Ⅲ 看護学特別研究 特定課題研究
専	准教授	三善 郁代 <令和5年4月> 修士(看護学)	専	准教授	三善 郁代 <令和5年4月> 修士(看護学)
		臨床薬理学特論※ フィジカルアセスメント特論※ 基礎看護学特論※ 基礎看護学特論演習Ⅰ 看護学特別研究			臨床薬理学特論※ フィジカルアセスメント特論※ 基礎看護学特論※ 基礎看護学特論演習Ⅰ 看護学特別研究
専	准教授	林 静子 <令和5年4月> 博士(看護学)	専	准教授	林 静子 <令和5年4月> 博士(看護学)
		看護ケア科学特論※ 基礎看護学特論※ 基礎看護学特論演習Ⅰ 基礎看護学特論演習Ⅱ 看護学特別研究			看護ケア科学特論※ 基礎看護学特論※ 基礎看護学特論演習Ⅰ 基礎看護学特論演習Ⅱ 看護学特別研究
専	准教授	河相 てる美 <令和5年4月> 博士(看護学)	専	准教授	河相 てる美 <令和5年4月> 博士(看護学)
		成人看護学特論 成人看護学特論演習Ⅰ 成人看護学特論演習Ⅱ 看護学特別研究			成人看護学特論 成人看護学特論演習Ⅰ 成人看護学特論演習Ⅱ 看護学特別研究
専	准教授	河野 由美子 <令和5年4月> 博士(学術)	専	准教授	河野 由美子 <令和5年4月> 博士(学術)
		地域在宅看護学特論※ 地域在宅看護学特論演習Ⅰ 地域在宅看護学特論演習Ⅱ 高齢者高度看護実践論※ 高齢者ケアシステム論※ 看護学特別研究			地域在宅看護学特論※ 地域在宅看護学特論演習Ⅰ 地域在宅看護学特論演習Ⅱ 高齢者高度看護実践論※ 高齢者ケアシステム論※ 看護学特別研究
専	准教授	浦井 珠恵 <令和5年4月> 博士(保健学)	専	准教授	浦井 珠恵 <令和5年4月> 博士(保健学)
		看護学研究特論※ 基礎看護学特論演習Ⅰ 高齢者アセスメント論※ 看護学特別研究			看護学研究特論※ 基礎看護学特論演習Ⅰ 高齢者アセスメント論※ 看護学特別研究
専	准教授	青柳 寿弥 <令和5年4月> 博士(看護学)	専	准教授	青柳 寿弥 <令和5年4月> 博士(看護学)
		ケアコミュニケーション特論※ 老年精神看護学特論演習Ⅰ※ 老年看護学原論※ 高齢者高度看護実践論※ 高度実践老年看護学演習Ⅱ※ 高度実践老年看護学実習Ⅰ 高度実践老年看護学実習Ⅱ 高度実践老年看護学実習Ⅲ 看護学特別研究 特定課題研究			ケアコミュニケーション特論※ 老年精神看護学特論演習Ⅰ※ 老年看護学原論※ 高齢者高度看護実践論※ 高度実践老年看護学演習Ⅱ※ 高度実践老年看護学実習Ⅰ 高度実践老年看護学実習Ⅱ 高度実践老年看護学実習Ⅲ 看護学特別研究 特定課題研究



<看護学研究科 看護学専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	伊藤 裕佳 <令和5年4月> 博士(看護学)	専	准教授	伊藤 裕佳 <令和5年4月> 博士(看護学)
		老年精神看護学特論演習Ⅰ※ 老年看護学原論※ 高齢者ケアシステム論※ 高度実践老年看護学演習Ⅰ※ 高度実践老年看護学実習Ⅰ 高度実践老年看護学実習Ⅱ 高度実践老年看護学実習Ⅲ 看護学特別研究 特定課題研究			老年精神看護学特論演習Ⅰ※ 老年看護学原論※ 高齢者ケアシステム論※ 高度実践老年看護学演習Ⅰ※ 高度実践老年看護学実習Ⅰ 高度実践老年看護学実習Ⅱ 高度実践老年看護学実習Ⅲ 看護学特別研究 特定課題研究
専	准教授	寺井 孝弘 <令和5年4月> 博士(看護学)	専	准教授	寺井 孝弘 <令和5年4月> 博士(看護学)
		看護統計特論※ 母子看護学特論※ 母子看護学特論演習Ⅰ※ 看護学特別研究			看護統計特論※ 母子看護学特論※ 母子看護学特論演習Ⅰ※ 看護学特別研究
専	准教授	小林 絵里子 <令和5年4月> 博士(保健学)	専	准教授	小林 絵里子 <令和5年4月> 博士(保健学)
		看護ケア科学特論※ 母子看護学特論演習Ⅰ※ 看護学特別研究			看護ケア科学特論※ 母子看護学特論演習Ⅰ※ 看護学特別研究
専	准教授	村田 美代子 <令和5年4月> 修士(医科学)	専	准教授	村田 美代子 <令和5年4月> 修士(医科学)
		母子看護学特論※ 母子看護学特論演習Ⅰ※ 母子看護学特論演習Ⅱ 看護学特別研究			母子看護学特論※ 母子看護学特論演習Ⅰ※ 母子看護学特論演習Ⅱ 看護学特別研究
専	准教授	清水 暢子 <令和5年4月> 博士(医学)	専	准教授	清水 暢子 <令和5年4月> 博士(医学)
		国際看護特論※ 地域在宅看護学特論演習Ⅰ 看護学特別研究			国際看護特論※ 地域在宅看護学特論演習Ⅰ 看護学特別研究
専	講師	福森 絢子 <令和5年4月> 修士(臨床心理学)	専	講師	福森 絢子 <令和5年4月> 修士(臨床心理学)
		ケアコミュニケーション特論			ケアコミュニケーション特論
専	講師	山本 麻理奈 <令和5年4月> 修士(看護学)	専	講師	山本 麻理奈 <令和5年4月> 修士(看護学)
		基礎看護学特論演習Ⅱ 高度実践老年看護学演習Ⅰ※			基礎看護学特論演習Ⅱ 高度実践老年看護学演習Ⅰ※
専	講師	鷲塚 寛子 <令和5年4月> 修士(看護学)	専	講師	鷲塚 寛子 <令和5年4月> 修士(看護学)
		基礎看護学特論演習Ⅱ			基礎看護学特論演習Ⅱ
専	講師	寺内 英真 <令和5年4月> 修士(看護学)	専	講師	寺内 英真 <令和5年4月> 修士(看護学)
		成人看護学特論演習Ⅱ			成人看護学特論演習Ⅱ
専	講師	川口 寛介 <令和5年4月> 博士(看護学)	専	講師	川口 寛介 <令和5年4月> 博士(看護学)
		フィジカルアセスメント特論※ 老年精神看護学特論演習Ⅱ 高齢者アセスメント論※ 老年医学特論※ 高齢者高度看護実践論※ 高度実践老年看護学演習Ⅰ 高度実践老年看護学実習Ⅰ 高度実践老年看護学実習Ⅱ 高度実践老年看護学実習Ⅲ 特定課題研究			フィジカルアセスメント特論※ 老年精神看護学特論演習Ⅱ 高齢者アセスメント論※ 老年医学特論※ 高齢者高度看護実践論※ 高度実践老年看護学演習Ⅰ 高度実践老年看護学実習Ⅰ 高度実践老年看護学実習Ⅱ 高度実践老年看護学実習Ⅲ 特定課題研究
専	講師	高木 園美 <令和5年4月> 修士(看護学)	専	講師	高木 園美 <令和5年4月> 修士(看護学)
		富山県の医療保健福祉特論※ 母子看護学特論演習Ⅱ			富山県の医療保健福祉特論※ 母子看護学特論演習Ⅱ
専	講師	若瀬 淳子 <令和5年4月> 修士(人間学)	専	講師	若瀬 淳子 <令和5年4月> 修士(人間学)
		母子看護学特論演習Ⅱ			母子看護学特論演習Ⅱ
専	講師	山崎(小林) 智可 <令和5年4月> 修士(看護学)	専	講師	山崎(小林) 智可 <令和5年4月> 修士(看護学)
		地域在宅看護学特論演習Ⅱ			地域在宅看護学特論演習Ⅱ

<看護学研究科 看護学専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	北島 友香 <令和5年4月> 博士(保健学)	母子看護学特論演習Ⅱ
専	講師	遠田 大輔 <令和5年4月> 博士(保健学)	老年精神看護学特論演習Ⅱ
専	講師	濱野 初恵 <令和5年4月> 博士(保健学)	成人看護学特論演習Ⅱ
専	講師	中堀 伸枝 <令和5年4月> 博士(医学)	富山県の医療保健福祉特論※ 地域在宅看護学特論演習Ⅱ
専	講師	大西 竜太 <令和5年4月> 修士(看護学)	看護統計特論※ 地域在宅看護学特論演習Ⅱ
専	助教	北林 正子 <令和5年4月> 修士(看護学)	地域在宅看護学特論演習Ⅱ
兼任	教授	鳥山 朋二 <令和5年4月> 博士(工学)	看護ケア科学特論※
兼任	講師	塚越 拓哉 <令和5年4月> 博士(情報理学)	看護ケア科学特論※
兼任	教授	唐山 英明 <令和5年4月> 博士(理学)	ケアコミュニケーション特論※
兼任	准教授	竹澤 みどり <令和5年4月> 博士(心理学)	コンサルテーション特論※
兼任	講師	早川 正祐 <令和5年4月> 博士(文学)	看護倫理特論※
兼任	講師	山下 暢子 <令和5年4月> 修士(看護学)	看護教育特論※
兼任	講師	野村 陽子 <令和5年4月> 博士(政治学)	看護管理特論※
兼任	講師	高長 雅美 <令和5年4月> 専門学校卒	看護管理特論※
兼任	講師	松井 弘美 <令和5年4月> 修士(看護学)	コンサルテーション特論※
兼任	講師	高山 望 <令和5年4月> 博士(看護学)	コンサルテーション特論※
兼任	講師	利田 智恵 <令和5年4月> 専門学校卒	コンサルテーション特論※
兼任	講師	河原 宣子 <令和5年4月> 修士(生物資源学)	国際看護特論※
兼任	講師	工藤 里香 <令和5年4月> 修士(看護学)	国際看護特論※
兼任	講師	本田 美和子 <令和5年4月> 学士(医学)	ケアコミュニケーション特論※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	北島 友香 <令和5年4月> 博士(保健学)	母子看護学特論演習Ⅱ
専	講師	遠田 大輔 <令和5年4月> 博士(保健学)	老年精神看護学特論演習Ⅱ
専	講師	濱野 初恵 <令和5年4月> 博士(保健学)	成人看護学特論演習Ⅱ
専	講師	中堀 伸枝 <令和5年4月> 博士(医学)	富山県の医療保健福祉特論※ 地域在宅看護学特論演習Ⅱ
専	講師	大西 竜太 <令和5年4月> 修士(看護学)	看護統計特論※ 地域在宅看護学特論演習Ⅱ
専	助教	北林 正子 <令和5年4月> 修士(看護学)	地域在宅看護学特論演習Ⅱ
兼任	教授	鳥山 朋二 <令和5年4月> 博士(工学)	看護ケア科学特論※
兼任	講師	塚越 拓哉 <令和5年4月> 博士(情報理学)	看護ケア科学特論※
兼任	教授	唐山 英明 <令和5年4月> 博士(理学)	ケアコミュニケーション特論※
兼任	准教授	竹澤 みどり <令和5年4月> 博士(心理学)	コンサルテーション特論※
兼任	講師	早川 正祐 <令和5年4月> 博士(文学)	看護倫理特論※
兼任	講師	山下 暢子 <令和5年4月> 修士(看護学)	看護教育特論※
兼任	講師	野村 陽子 <令和5年4月> 博士(政治学)	看護管理特論※
兼任	講師	高長 雅美 <令和5年4月> 専門学校卒	看護管理特論※
兼任	講師	松井 弘美 <令和5年4月> 修士(看護学)	コンサルテーション特論※
兼任	講師	高山 望 <令和5年4月> 博士(看護学)	コンサルテーション特論※
兼任	講師	利田 智恵 <令和5年4月> 専門学校卒	コンサルテーション特論※
兼任	講師	河原 宣子 <令和5年4月> 修士(生物資源学)	国際看護特論※
兼任	講師	工藤 里香 <令和5年4月> 修士(看護学)	国際看護特論※
兼任	講師	本田 美和子 <令和5年4月> 学士(医学)	ケアコミュニケーション特論※

<看護学研究科 看護学専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	守田 万寿夫 <令和5年4月> 学士(医学)	兼任	講師	守田 万寿夫 <令和5年4月> 学士(医学)
		富山県の医療保健福祉特論※			富山県の医療保健福祉特論※
兼任	講師	河村 瑞穂 <令和5年4月> 専門学校卒	兼任	講師	河村 瑞穂 <令和5年4月> 専門学校卒
		富山県の医療保健福祉特論※			富山県の医療保健福祉特論※
兼任	講師	服部 裕一 <令和5年4月> 博士(医学)	兼任	講師	服部 裕一 <令和5年4月> 博士(医学)
		臨床薬理学特論※			臨床薬理学特論※
			兼任	講師	横尾 宏毅 <令和5年4月> 博士(医学)
					臨床薬理学特論※
			兼任	講師	山崎 弘美 <令和5年4月> 医学博士
					臨床薬理学特論※
兼任	講師	山城 清二 <令和5年4月> 医学博士	兼任	講師	山城 清二 <令和5年4月> 医学博士
		フィジカルアセスメント特論※			フィジカルアセスメント特論※
兼任	講師	臼田 和生 <令和5年4月> 博士(医学)	兼任	講師	臼田 和生 <令和5年4月> 博士(医学)
		病態生理学特論※			病態生理学特論※
兼任	講師	丸山 美知郎 <令和5年4月> 博士(医学)	兼任	講師	丸山 美知郎 <令和5年4月> 博士(医学)
		病態生理学特論※			病態生理学特論※
			兼任	講師	音羽 勤一 <令和5年4月> 博士(医学)
					病態生理学特論※
兼任	講師	谷口 浩和 <令和5年4月> 博士(医学)	兼任	講師	谷口 浩和 <令和5年4月> 博士(医学)
		病態生理学特論※			病態生理学特論※
兼任	講師	酒井 明人 <令和5年4月> 博士(医学)	兼任	講師	酒井 明人 <令和5年4月> 博士(医学)
		病態生理学特論※			病態生理学特論※
兼任	講師	赤堀 弘 <令和5年4月> 博士(医学)	兼任	講師	吉澤 都 <令和5年4月> 学士(医学)
		病態生理学特論※			病態生理学特論※
兼任	講師	中村 琢哉 <令和5年4月> 博士(医学)	兼任	講師	丸善 兆延 <令和5年4月> 博士(医学)
		病態生理学特論※			病態生理学特論※
兼任	講師	近藤 恭夫 <令和5年4月> 博士(医学)	兼任	講師	近藤 恭夫 <令和5年4月> 博士(医学)
		病態生理学特論※			病態生理学特論※
兼任	講師	瀬戸 親 <令和5年4月> 博士(医学)	兼任	講師	瀬戸 親 <令和5年4月> 博士(医学)
		病態生理学特論※			病態生理学特論※
兼任	講師	南 里恵 <令和5年4月> 博士(医学)	兼任	講師	南 里恵 <令和5年4月> 博士(医学)
		病態生理学特論※			病態生理学特論※
兼任	講師	野原 茂 <令和5年4月> 博士(医学)	兼任	講師	野原 茂 <令和5年4月> 博士(医学)
		病態生理学特論※			病態生理学特論※
兼任	講師	藤永 洋 <令和5年4月> 博士(医学)	兼任	講師	藤永 洋 <令和5年4月> 博士(医学)
		病態生理学特論※			病態生理学特論※
兼任	講師	越田 嘉尚 <令和5年4月> 博士(医学)	兼任	講師	越田 嘉尚 <令和5年4月> 博士(医学)
		病態生理学特論※			病態生理学特論※
兼任	講師	松倉 早知子 <令和5年4月> 修士(看護学)	兼任	講師	松倉 早知子 <令和5年4月> 修士(看護学)
		病態生理学特論※			病態生理学特論※
兼任	講師	東川 俊寛 <令和5年4月> 医学博士	兼任	講師	東川 俊寛 <令和5年4月> 医学博士
		老年医学特論※			老年医学特論※
兼任	講師	富岳 亮 <令和5年4月> 医学博士	兼任	講師	富岳 亮 <令和5年4月> 医学博士
		老年医学特論※			老年医学特論※

<看護学研究科 看護学専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	井上 博 <令和5年4月> 医学博士
		老年医学特論※
兼任	講師	保田 賢司 <令和5年4月> 医学博士
		老年医学特論※
兼任	講師	三浦 太郎 <令和5年4月> 学士(医学)
		老年医学特論※
兼任	講師	木林 勉 <令和5年4月> 保健学博士
		老年医学特論※
		高度実践老年看護学演習Ⅰ※
兼任	講師	長瀬 佐知子 <令和5年4月> 修士(看護学)
		高齢者高度看護実践論※
		高度実践老年看護学演習Ⅱ※
兼任	講師	中村 美穂 <令和5年4月> 修士(看護学)
		高齢者高度看護実践論※
兼任	講師	高田 和加子 <令和5年4月> 専門学校卒
		高齢者高度看護実践論※
兼任	講師	桑田 美代子 <令和5年4月> 修士(看護学)
		高齢者ケアシステム論※
兼任	講師	惣万 佳代子 <令和5年4月> 専門学校卒
		高齢者ケアシステム論※
兼任	講師	森山 治 <令和5年4月> 修士(文学)
		高齢者ケアシステム論※
兼任	講師	榑原 千秋 <令和5年4月> 博士(保健学)
		高度実践老年看護学演習Ⅰ※
兼任	講師	石原 昌代 <令和5年4月> 修士(看護学)
		高度実践老年看護学演習Ⅰ※

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	井上 博 <令和5年4月> 医学博士
		老年医学特論※
兼任	講師	保田 賢司 <令和5年4月> 医学博士
		老年医学特論※
兼任	講師	三浦 太郎 <令和5年4月> 学士(医学)
		老年医学特論※
兼任	講師	木林 勉 <令和5年4月> 保健学博士
		老年医学特論※
		高度実践老年看護学演習Ⅰ※
兼任	講師	長瀬 佐知子 <令和5年4月> 修士(看護学)
		高齢者高度看護実践論※
		高度実践老年看護学演習Ⅱ※
兼任	講師	中村 美穂 <令和5年4月> 修士(看護学)
		高齢者高度看護実践論※
兼任	講師	高田 和加子 <令和5年4月> 専門学校卒
		高齢者高度看護実践論※
兼任	講師	桑田 美代子 <令和5年4月> 修士(看護学)
		高齢者ケアシステム論※
兼任	講師	惣万 佳代子 <令和5年4月> 専門学校卒
		高齢者ケアシステム論※
兼任	講師	森山 治 <令和5年4月> 修士(文学)
		高齢者ケアシステム論※
兼任	講師	榑原 千秋 <令和5年4月> 博士(保健学)
		高度実践老年看護学演習Ⅰ※
兼任	講師	石原 昌代 <令和5年4月> 修士(看護学)
		高度実践老年看護学演習Ⅰ※

(1) -②担当教員表に関する変更内容

**【令和5年度】**

特になし

- (注)
- ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
  - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
6 名	- 名	- 名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
11	11	13	1	36	0	11	11	13	1	36	0
(11)	(11)	(13)	(1)	(36)	(0)						
研究 指導 教員 数		研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		研究 指導 教員 数		研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/	
うち教授 数						うち教授 数					
18	11	9	9			18	11	9	9		
(18)	(11)	(9)	(9)			(18)	(11)	(9)	(9)		
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
11	11	13	1	36	0	11	11	13	1	36	0
[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
研究 指導 教員 数		研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		研究 指導 教員 数		研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/	
うち教授 数						うち教授 数					
18	11	9	9			18	11	9	9		
[0]	[0]	[ 0 ]	[ 0 ]			[0]	[0]	[ 0 ]	[ 0 ]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、  
「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、  
 [ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、  
 [ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員 うち、定年を延長し て採用する教員数
講師以上65 助教以下60 歳	2 名	2 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{36}{36} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{36} = \boxed{5.55} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1								
2								
合計（D）					後任補充状況の集計（E）			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	
		計	0	科目	計	0	科目	計

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
合計（F）					後任補充状況の集計（G）		
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
							科目
							科目
							科目
							科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）			
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0	必修	0	必修	0
		選択	0	選択	0	選択	0
		自由	0	自由	0	自由	0
		計	0	計	0	計	0

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{\#DIV/0!} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
- ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F)と同数を記載してください。



(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1							
2							
合計			後任補充状況の集計				
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	- 科目	必修	- 科目	必修	- 科目
		選択	- 科目	選択	- 科目	選択	- 科目
		自由	- 科目	自由	- 科目	自由	- 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について、記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

特になし
------

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。



6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等	履行状況	今後の実施計画
認可時 (令和4年)	<p>「審査意見への対応を記載した書類(6月)」の審査意見1への対応において、「設置の趣旨等を記載した書類(資料)」の資料7-1で育成する人材像と3つのポリシーの関係が説明されているが、ディプロマ・ポリシー6に掲げる「看護職として生涯にわたって自己研鑽し続け、プロフェッショナルとしての高い意識と倫理観をもって行動できる力を身につけている」に対応するカリキュラム・ポリシーは全項目であると説明されている。全てのカリキュラム・ポリシーに関係するのであれば、「設置の趣旨等を記載した書類(資料)」の資料7-2(カリキュラムポリシーと授業科目の関係)で示されているとおり、全ての授業科目に関係することになるが、シラバスを見ると、例えば、「看護統計特論」は看護における統計の理論と実践を学ぶことを目的としているが、ディプロマ・ポリシー6に掲げられた「プロフェッショナルとしての高い意識と倫理観をもって行動できる力」を身につける内容となっているとは見受けられず、ディプロマ・ポリシー6に掲げられた各能力が、いずれのカリキュラム・ポリシーに基づく授業科目によって涵養(かんよう)することが想定され、学生に対し修得することが求められているのが必ずしも明確ではない。このことから、ディプロマ・ポリシーを達成するための授業科目を確実に履修できるよう、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー、各授業科目との対応関係について、より明確に整理して分かりやすく示すなど、学生等が理解できるよう適切に改めつつ、周知徹底を図ること。</p> <p style="text-align: right;">【認可】 遵守事項</p>	<p>本学では、受講する授業科目の選択・登録、試験・単位の修得など修了要件等をまとめた「履修の手引」という冊子を作成し、入学生・在学生に配付の上説明を行っている。</p> <p>この手引に、改訂した「育成する人材像と3つのポリシーの関係」、「カリキュラム・マップ」及び「カリキュラムポリシーおよびディプロマポリシーと授業科目の関係」を掲載し、ディプロマ・ポリシーを達成するための授業科目を確実に履修できるよう、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー、各授業科目との対応関係について、より明確に整理して分かりやすく示した。</p> <p>R5年度入学生にガイダンス等で説明し、周知徹底を図った。</p> <p>【資料1】</p> <p style="text-align: right;">履行済</p>	
認可時 (令和4年)	<p>・「審査意見への対応を記載した書類(6月)」の審査意見1への対応において、「設置の趣旨等を記載した書類(資料)」の資料7-1及び資料7-2によって、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及び授業科目の関係が示されたが、ディプロマ・ポリシー4に掲げる「国際的な保健医療に関心を持ち、柔軟な思考と広い視野を身につけている」及びこれに対応するカリキュラム・ポリシー4に掲げる「国際的な保健医療に関心を持ち、併せて地域や社会の保健医療福祉の課題解決に向けて主体的に取り組む能力を培う」に関連する科目であり、専門看護師コースの必修科目でもある「老年看護学原論」及び「高齢者ケアシステム論」では、シラバスの内容を確認する限り、国際的な保健医療を取り扱うと見受けられる講義内容は計30回中5回のみとなっていることから、カリキュラム・ポリシー4及びディプロマ・ポリシー4を達成するため、国際的な保健医療に係る講義回数や授業科目を増やすなど、必要かつ十分な授業内容を充実させること。</p> <p style="text-align: right;">【認可】 遵守事項</p>	<p>「老年看護学原論」では、全15回中、5回を、「高齢者ケアシステム論」では、全15回中、6回を国際的な保健医療を取り扱う内容とし、シラバスに明記し学生に案内した。</p> <p>【資料2-1, 2】</p> <p style="text-align: right;">履行済</p>	
認可時 (令和4年)	<p>・専任教員資格審査の結果により、教員の補充が必要とされた授業科目については、確実に教員を充足させること。</p> <p style="text-align: right;">【認可】 遵守事項</p>	<p>設置認可時の専任教員資格審査において、「老年精神看護学特論」「老年精神看護学特論演習Ⅰ」「高度実践老年看護学演習Ⅱ」の3つの授業科目について専任補充とされた。</p> <p>この3科目について専任教員を補充し、令和4年度第4回AC教員審査を受審した結果、可の判定をいただいた。</p> <p>(張平平教授、木谷尚美教授、青柳寿弥准教授)</p> <p style="text-align: right;">履行済</p>	

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
    - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】  
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「（４）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（５）」と記載してください。
    - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】  
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「（４）（５）」と記載してください。
    - 【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】  
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（５）」と記載してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

### <看護学研究科看護学専攻>

#### (1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
特になし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

#### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 該当なし</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 該当なし</p> <p>c 委員会の審議事項等 該当なし</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 該当なし</p> <p>b 実施方法 該当なし</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む） 該当なし</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 該当なし</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期 該当なし</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等 該当なし</p>
<p>a 実施の有無及び実施時期 該当なし</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等 該当なし</p>

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見  
令和5年4月1日設置のため未評価

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

令和5年7月31日公表

b 公表方法

大学ホームページ上に公開予定（令和5年7月31日を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- （専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画につ  
・平成28年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受審した。  
・令和5年度に評価機関の評価を受審予定（一般財団法人大学教育質保証・評価センター）

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [  有 ・  無 ]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [  調査結果公表後1ヶ月以内 ・  公表後2～3ヶ月以内 ・  公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [  ウェブサイトへの掲載 ・  その他 ( ) ]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。